

(仮称) 第3期千葉県地方創生総合戦略  
 ~デジタル田園都市国家構想の実現に向けて~  
 骨子(案)



## 改訂スケジュール(予定)

時期	策定手続	内容
令和5年 7月	第1回策定懇談会	基本方針について
8月		
9月		
10月	第2回策定懇談会	骨子案について
11月		
12月	原案(文章案)の送付・確認	
令和6年 1月	第3回策定懇談会	原案(文章案)について
2月	パブリックコメント	
3月	地方創生プロジェクトチーム 戦略の改訂	

## <改訂の経緯>

国はデジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化し、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指し、2022年（令和4年）12月に「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定した。

その中で、地方はそれぞれが抱える社会課題等を踏まえ、地域の個性や魅力を生かした地域ビジョンを再構築し、地方版総合戦略を改訂するよう努めるとされている。

このため、計画期間が2020年度（令和2年度）から2024年度（令和6年度）までの第2期千葉県地方創生総合戦略を改訂することとした。

## <千葉県地方創生総合戦略の推移>

### 第1期 千葉県地方創生総合戦略

### 第2期 千葉県地方創生総合戦略

### (仮称) 第3期 千葉県地方創生総合戦略

2015（平成27）年度  
～2019（令和元）年度

- ・第1期千葉県地方創生総合戦略策定（2015年10月）
- ・総合戦略の中間点検（2018年度）
- ・国が第2期総合戦略を策定（2019年12月）
- ・第2期「千葉県地方創生総合戦略」の検討

2020（令和2）年度  
～2024（令和6）年度

- ・第2期千葉県地方創生総合戦略策定（2020年11月）
- ・国が「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定（2022年12月）（計画期間2023年度～2027年度）
- ・（仮称）第3期「千葉県地方創生総合戦略」の検討

2024（令和6）年度  
～2027（令和9）年度

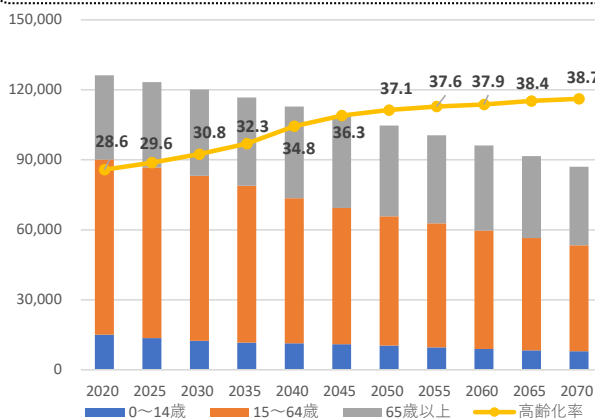
地方創生の実現・深化  
（デジタル技術の活用）

2

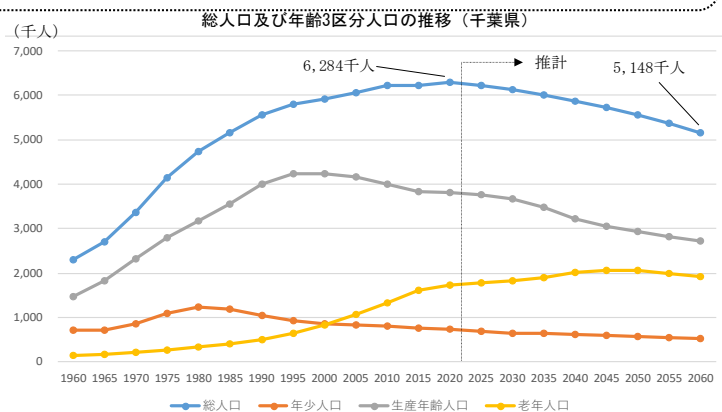
## I. 人口ビジョン

### 人口の将来見通し

- 我が国の人口は2008年をピークに減少傾向にあり、社人研推計によると、2020年国勢調査による1億2,615万人から、2070年には8,700万人（2020年時点の69.0%）に減少するとされている。
- 総合計画策定時に実施した将来推計人口では、2060年の総人口は514.8万人（2020年に比べ113.6万人、約18%減少）となる見込み。生産年齢人口が約53%に減少し、高齢化率は約37%まで上昇する。



国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」



資料：新たな総合計画における県推計

### 第2期総合戦略の計画期間における主な課題

#### 【働く】

- ・様々な分野において担い手不足の解消が必要
- ・本県のポテンシャルを活かし、良質な雇用の場の創出が必要
- ・観光客をひきつける高付加価値の観光コンテンツの醸成が必要

#### 【活躍する】

- ・年齢、性別などに関わらず誰もが活躍できる環境が必要
- ・社会に出てからも、必要なスキルを身に着けられる環境が必要
- ・半島性を克服する交通ネットワークの整備が必要
- ・地域のブランド化を進め、移住等の推進が必要

#### 【育む・育つ】

- ・子育て環境の一層の充実が必要
- ・安心して妊娠・出産・子育てができる環境整備が必要

#### 【暮らす】

- ・地域で安全で快適に暮らせるまちづくりが必要
- ・健康で安心して暮らせる社会の構築が必要

参考1 参照

# I. 人口ビジョン

## 目指すべき理想像（千葉県地域ビジョン）

### ○人の流れ

本県での日本人の社会増は、2023年に前年度と比べ減少となり、やや鈍化しているものの、継続している状況である。

- ・社会増となっている地域は、東葛・湾岸ゾーンに集中しており、年齢区分としては、生産年齢人口が約70%を占めている。
- ・外国人人口も増加しており、2022年は過去最高の約1万76千人となった。
- ・外国人人口も東葛・湾岸ゾーンに集中しており、年齢区分としては、生産年齢人口が約85%を占めている。

**本県に向かう人の流れを加速させるため、本県の持つ魅力や可能性を伸ばす。**

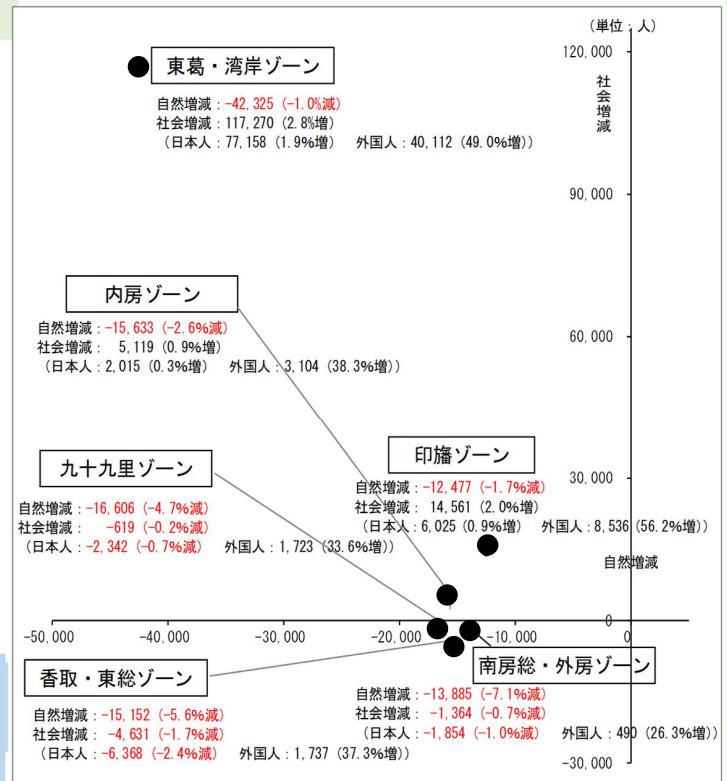
### ○本県の魅力や可能性

- ・本県は東京圏にある中、豊かな緑や海、文化と優れた都市機能などを問わず、自分にあったライフスタイル、暮らしを実現できるリソースを持っている。
- ・2028年度末に予定されている成田空港の第3滑走路の供用開始等の更なる機能強化、圏央道・北千葉道路などの整備促進など、県内の活力を一層向上させる好機を迎えている。

### 千葉県の地域ビジョン

## 「千葉らしいライフスタイル」の創造

地方創生を実現・深化し、本県の魅力や可能性を更に発展させることで、「千葉らしいライフスタイル」を創造し、そのライフスタイルに惹かれた人が千葉に集まり、さらに「千葉らしいライフスタイル」が広がっていく好循環が生じることを目指す。



資料：2018～2022年「千葉県毎月常住人口調査」

参考2 参照

# II. (仮称) 第3期千葉県地方創生総合戦略 (計画期間：2024年度～2027年度)

## 施策の方向性

- 本県では、まち・ひと・しごと創生法に基づき、2015年（平成27年）10月に「千葉県地方創生総合戦略」を策定し、急激な人口減少に歯止めをかけ、地域の活力を取り戻す地方創生の取組を進めてきたところである。
- 今後は、新たに生じた地域課題に対応するとともに、デジタルの力などを活用しながら、「人が働き、活躍し、育み・育ち、暮らす」ことで地方創生をさらに発展させていくことで、「千葉らしいライフスタイル」を創造していく。
- また、各地域の実情に応じた施策を効果的に実施していくため、住民に最も身近な自治体である市町村と密接に連携しながら、県と市町村の施策が相乗効果を発揮するよう取り組んでいく。

## < (仮称) 第3期千葉県地方創生総合戦略の基本的な方向性 >

様々な分野での人手不足の解消や「千葉らしいライフスタイル」を創造するためには、本県の魅力や可能性を伸ばす「人」が重要。

『「人」が働き、活躍し、育み・育ち、暮らす』

### <基本目標>

既に本県においても、総人口が減少に転じており、また、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、ライフスタイルの変化やデジタル化の進展、対面型から非対面型ビジネスモデルへの移行など、様々な社会情勢の変化が生じている。

こうした中、目指すべき理想像（地域ビジョン）である「千葉らしいライフスタイルの創造」を実現するため、国が戦略で示した取組方針を参考にするとともに、「千葉県総合計画」及び「千葉県デジタル・トランスフォーメーション推進戦略」、県総合戦略の基本的な方向性を踏まえ、基本目標を以下のとおりとする。

### 基本目標1 (働く)

地域経済を活性化させる環境づくり

### 基本目標2 (活躍する)

多様な人材が活躍できる社会づくり

### 基本目標3 (育み・育つ)

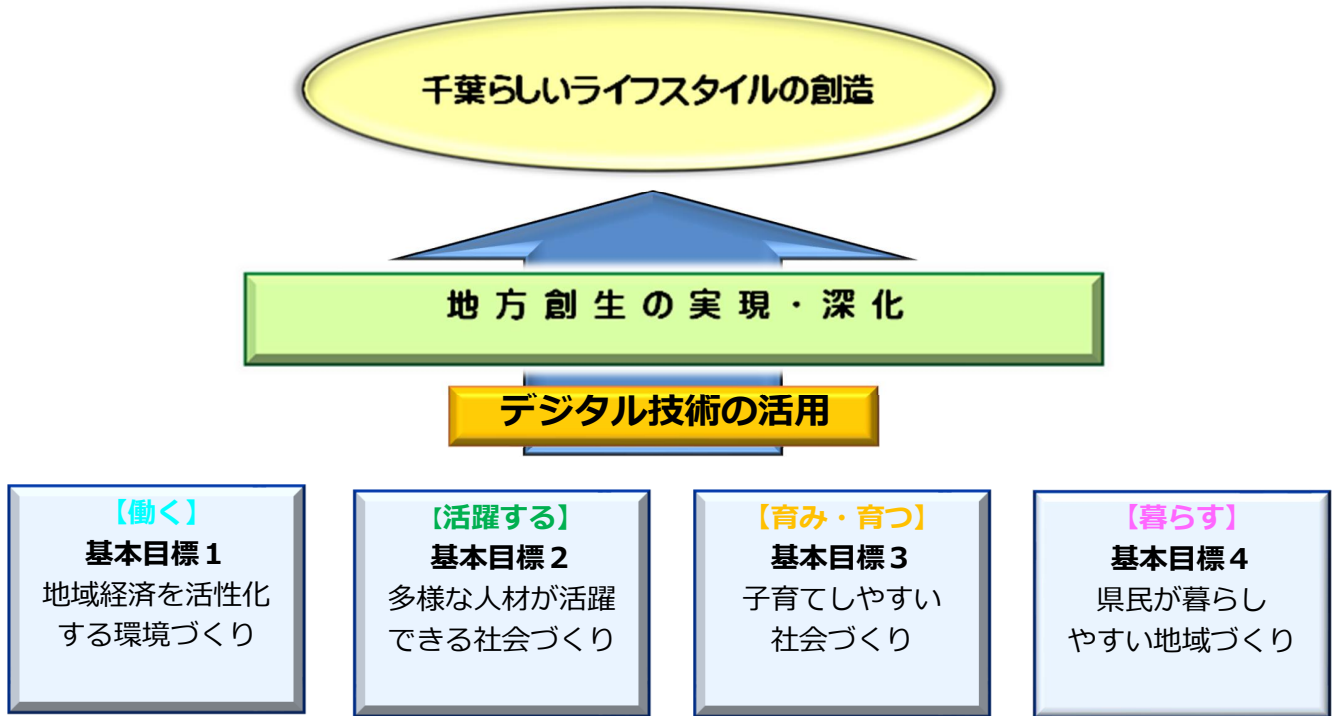
子育てしやすい社会づくり

### 基本目標4 (暮らす)

県民が暮らしやすい地域づくり

## Ⅱ. (仮称) 第3期千葉県地方創生総合戦略 (計画期間: 2024年度~2027年度)

### 改訂に向けた基本的な方向性 (イメージ図)



## Ⅱ. (仮称) 第3期千葉県地方創生総合戦略 (計画期間: 2024年度~2027年度)

### 地方創生におけるデジタルの活用

#### 第3期戦略の基本目標

- 基本目標1 地域経済を活性化する環境づくり
- 基本目標2 多様な人材が活躍できる社会づくり
- 基本目標3 子育てしやすい社会づくり
- 基本目標4 県民が暮らしやすい地域づくり

#### デジタルの様々な可能性

自動化

見える化

最適化

#### デジタルのチカラで

つながる  
~マッチング~

分かち合う  
~シェアリング~

個々に  
合わせる  
~パーソナライズ~

※千葉県DX推進戦略から引用

#### ①デジタルで「働く」を次のステージへ

労働人口が減少する中、デジタル技術によって、産業の生産性向上を図るとともに、新たなイノベーションやサービスの創出につなげる。

#### ②デジタルは「活躍する」を広げる

新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、デジタル技術を活用したテレワークなどの新しい働き方に取り組む企業・人々が増え、物理的に通勤が可能な範囲から、人々の活躍の場を広げる。

#### ③デジタルが「育み・育つ」を変える

デジタル技術は、教育などの子どもを育む分野でも積極的に活用が図られており、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるなど、「育み・育つ」を変えていく。

#### ④デジタルで「暮らす」を安全に楽しく

デジタル技術を活用することで、社会基盤施設や医療などの「暮らす」の安全がさらに向上するとともに、文化芸術などの新たな表現の創出による「楽しみ」等の実現を図る。

## 基本目標 1：地域経済を活性化する環境づくり（働く）

本県経済は、新型コロナウイルスの拡大によって生じた様々な環境の変化に加え、デジタル化の進展、脱炭素社会への取組などにより、社会経済の大きな変革期を迎えている。

こうした中であっても、農林水産業や観光業との連携などにより、次世代に求められる総合力の高い産業を創出し、地域の新たな雇用につなげていく。

また、成田空港の更なる機能強化に合わせた地域の発展を促進するとともに、空港の利活用の促進や県内外との交通アクセスの更なる充実により、本県経済の活性化を目指す。

さらに、本県産業が持続的に発展するよう、商工業の経営基盤や農林水産業の生産基盤等の強化を図るとともに、将来を支える産業人材の確保・育成を進める。

①未来を支える産業の振興	ア. 新産業の振興 ウ. 新たな産業用地の確保	イ. 本県の特徴を生かした企業誘致の推進 エ. 空き公共施設等を活用した企業誘致の推進
②京葉臨海コンビナートの競争力強化	ア. 京葉臨海コンビナートの生産性向上や事業環境の改善 ウ. カーボンニュートラルコンビナートの推進	イ. コンビナートを支える人材の能力向上や担い手の育成
③環境保全と経済成長の好循環の創出	ア. 再生可能エネルギー等の活用促進 ウ. 再生可能エネルギー産業等の振興	イ. 省エネルギーの促進
④中小企業の活性化支援	ア. 中小企業の経営基盤強化 エ. 事業承継の推進	イ. 事業再構築の促進 ウ. 中小企業等の人材確保 カ. 中小企業のDX推進
⑤地域の創意工夫による経済活性化の取組の促進	ア. 地域資源の活用、ブランド化の推進 ウ. MICEの誘致	イ. 商店街の活性化支援 エ. 起業・創業の促進 オ. 地域人材の活用促進
⑥力強い農林水産業の確立	ア. 次世代を担う人材の育成・確保 ウ. 市場動向を捉えた販売力の強化	イ. 農林水産業の成長力の強化 エ. 地域の特徴を生かした農山漁村の活性化 オ. スマート農林水産業の加速化
⑦千葉の強みを生かした観光地の整備	ア. 魅力ある観光地づくり ウ. 国内観光プロモーションの展開	イ. 観光産業の競争力強化 エ. インバウンドの推進 オ. 観光地へのアクセスを強化する道路整備の推進 カ. デジタルを活用した観光振興
⑧地域と空港の発展が好循環する地域づくり	ア. 成田空港を支える人材の確保を起点とした地域づくり ウ. 交通ネットワークの強化・充実	イ. 成田空港周辺地域における国際的な産業拠点の形成 エ. 更なる機能強化を見据えた成田空港の利活用の促進と人とモノの流れの取り込み

## 基本目標 2：多様な人材が活躍できる社会づくり（活躍する）

様々な人が本県に住み、訪れ、連携・協力していくことにより、相互作用や相乗効果を生み出し、社会経済の活力、創造性を高めていくことができると考えられることから、将来にわたって活力ある千葉県を維持していくためには、様々な人を千葉県に呼び込み、その人が活躍できるようにすることが重要である。

このため、本県の大きな課題である半島性の克服のため、交通ネットワークの充実を図ることで、千葉に向かう「人・モノ・財」の流れをより一層大きくしていくとともに、移住・二地域居住やテレワーク・ワーケーションなどの取組を進めることで、多様な人材が集う環境を整える。

また、千葉県に集まった人々が十分に活躍できるよう、多様性が尊重され、誰もが活躍できる社会の実現を図る様々な取組を進めていく。

①多様な人材が集う環境の整備	ア. 移住・二地域居住の推進 ウ. テレワーク・ワーケーション等の推進 エ. 地域のブランド化の推進	イ. 若者の定着支援 エ. 空き家の適切な維持管理・流通・活用の促進
②半島性を克服する交通ネットワークの強化	ア. 高規格道路等の整備促進 ウ. 国道・県道のバイパス・現道拡幅等の整備推進	イ. アクアラインの料金引き下げの継続 エ. 港湾の整備・振興
③誰もが活躍できる社会の実現	ア. 女性・高齢者・障害者・外国人等が活躍できる取組の推進 ウ. 働き方改革の推進	イ. 多様な人材の就労支援 エ. 多様性を尊重する意識の醸成
④誰もが学び・学び直しができる社会の実現	ア. リカレント教育・リスキリングの推進	イ. 生涯学習の充実
⑤様々な人材が参画できる地域コミュニティの実現	ア. 若者、高齢者、地元企業等の地域活動への参加促進 ウ. 地域に関わる多様な主体による連携・協働の促進 エ. 学校を核とした地域コミュニティの構築と子どもの学びへの支援 カ. 地域社会への参加促進	イ. 地域活動を支える市民活動団体等の育成

## 基本目標3：子育てしやすい社会づくり（育み・育つ）

県民の結婚・子育ての希望を実現するためには、妊娠・出産・子育てのライフステージに応じて、誰もが安心して子どもを生み、育てられる環境をつくることが重要である。

このため、子育てに要する経済的な負担軽減など、妊娠・出産・子育てに係る総合的な支援や、子育てを地域全体で支える環境づくりを行うとともに、子どもの主体性や創造性を育むような保育の質の充実に向けた取組を行う。

また、国のこども大綱を踏まえ、県においても総合的なこども関連施策に取り組んでいく。

さらに、大きな社会的な変化・変革の中で、新しい時代に対応する「生きる力」を持ち、千葉県の未来を担う子どもや若者を育てていくため、デジタルも活用しながら、個々の能力や可能性を最大限に伸ばしていく。

①妊娠・出産・子育ての環境整備	ア. 結婚や出産の希望をかなえるための支援 イ. 子育てに要する経済的負担の軽減 ウ. 若者の経済的自立と就労支援 工. 働きながら子育てしやすい環境づくり オ. 妊娠に関する支援
②子育て支援の充実	ア. 保育等の子育て支援体制の整備 イ. 保育人材等の確保と資質の向上 ウ. 子どもの保健対策に関する支援 エ. 児童虐待防止対策の充実と社会的養護が必要な子どもへの支援の充実 オ. 企業・地域による支援体制及び協働体制の構築 カ. 幼児教育の推進 キ. 家庭教育への支援 ク. 子どもや家庭に対する相談支援体制の充実
③未来を担う子どもの育成	ア. すべての子どもたちが質の高い教育を受けられる環境づくり イ. キャリア教育の推進 ウ. 学校の魅力の向上と改革の更なる推進 エ. 学校における多様な教育活動を支援する体制づくり オ. ICTを活用した教育の質の向上

10

## 基本目標4：県民が暮らしやすい地域づくり（暮らす）

県民が暮らしやすい地域をつくるためには、県民が安全に暮らせる環境の整備や、健康で安心して暮らせる社会の構築、快適なまちづくりなどが重要である。また、県や市町村等の行政サービスについて、行政手続にかかる時間の最小化や、それぞれのニーズに合ったきめ細かい行政サービスが受けられる環境づくりも重要である。

このため、激甚化する災害などに対応し、県民の安全・安心な暮らしを守るため、災害時の関係機関と連携した取組を推進することで、被災者支援の対策強化を図るほか、超高齢社会の中にあっても地域に必要な医療・福祉・介護などのサービスを確保する取組などを進めていく。さらに、県や市町村のDXの加速化など、スマート自治体の実現に向けた取組を進めていく。

①安全に暮らせる環境の整備	ア. 自助・共助・公助が一体となった地域防災力の向上 イ. 災害に強い地域づくりの推進 ウ. 地域防犯力の向上 工. デジタルを活用した安全な地域づくりの推進
②健康で安心して暮らせる社会の構築	ア. 医療・福祉・介護サービスの確保 イ. 健康寿命の延伸 ウ. 医療・福祉・介護人材の確保と資質の向上 エ. 医療・福祉・介護分野でのデジタル化の推進 オ. 生涯スポーツの推進
③快適で暮らしやすいまちづくり	ア. 公共施設等の適正な維持管理 イ. インフラDX ウ. コンパクトなまちづくり エ. まちづくり分野でのDXの活用 オ. 公共交通ネットワークの充実・維持・確保 カ. 国定公園・県立自然公園等の整備・保全 キ. バリアフリー化の推進
④文化芸術・スポーツを生かした千葉らしい地域づくり	ア. 文化芸術の振興 イ. スポーツを生かした地域づくり
⑤スマート自治体の実現	ア. 県行政DXの加速化 イ. 市町村DXの推進に向けた連携・支援
⑥地域連携の強化	ア. 県と市町村及び市町村間の連携強化 イ. 隣接都県との連携強化

11